

盲導犬と声楽家のハーモニー

大阪教育大学附属平野中学校 1年

谷内 俊介

この題を選んだ理由は、コロナ禍でコンサートに行けない時に、インターネットを見て初めて知ったからです。その盲目の声楽家は、目が見えなくても、盲導犬をつれて舞台上で歌を披露しようと、音楽を一生懸命勉強されて、コンサートの舞台に立っておられます。視覚障がいがあっても、音楽を感じたり、歌ったりして表現できるのは、本当に素晴らしいです。

音楽は、ずっと昔から続く、だれもが楽しむことのできる芸術です。声楽家は、声で自分自身の思いなどを表現しています。声で表現することによって、同じ目が見えない人たちにも勇気を与え、聞いている人もコンサートを楽しむことができます。そして、コロナ禍でも、自宅からも聞くことができ、ぼくも音楽を聞いていました。

盲導犬は、日常生活の中でとても大切な役割を果たしています。盲導犬の役割は、目の不自由な人が、安全に歩くためのパートナーとなることです。交差点や段差で止まったり、障害物をよけたりして歩きます。ハーネスから伝わってくる盲導犬の動きや、周りの音や、足元の変化を基に周りの状況を判断します。目の不自由な人と、盲導犬の歩行は、人と犬との共同作業です。

盲目の声楽家は、ぼくが通っている附属中学校の、大学の音楽科でした。音楽活動以外にも、盲導犬を知ってもらうために、小学校に講演に行っています。小学校に向かう時は、盲導犬がきちんとサポートしています。講演の内容は、視覚障がいのある人の歩行手段、声のかけ方、盲導犬についてです。盲導犬は、毎月健康診断を受けています。また、社会全体で取り組む課題として、盲導犬と一緒に入れるお店が少ないことをお話しておられます。

この声楽家は、中学生の時に目が不自由でいじめられたり、将来に絶望したりしたけれど、高校で出会った先生や、大学の時に友人から励まされた一言で、目標に向かってがんばることができました。そして、声楽家になる夢を叶えました。小学校の講演は、子どもたちと触れ合う場でもあり、障がいについて知ってもらう場でもあります。メディアに出演して、幅広く活動中です。盲導犬について理解されるようにSNSなどで発信されています。

障がいがあってもがんばっていて、ぼくはすごいと感じました。コンサートの時は、盲導犬も一緒に舞台に登場しますが、歌っている間は静かに座っています。生きていくうえで夢を持つことの大切さ、出会う仲間、先生が宝物であると、声楽家はぼくたちに伝えてくれています。いつかコンサートホールに行き、堂々と歌っている姿を見たいです。